

南大東村の沿革

絶海の孤島 南大東島

古来南大東島は、琉球人の間でウフアガリ島として知られていたそうであるが、1885 (明治 18) 年、沖縄県庁の探検により日本国標が建てられ、沖縄県に属しました。それより数年を経て本島の開拓を希望するものが続出し、6名の人によって開拓が試みられたが、島の周囲けんしゅんにして上陸出来ず、断念する者、上陸したが物資を放置して引き返す者、未着手のまま断念する者で何れも失敗に終わりました。

開拓開始

1899 (明治 32) 年に至り、玉置半 右衛門氏が本島開拓の許可を受け、郷 里八丈島において同志を募り、60日余 の難航海を経て現在の西港に上陸、開 拓に着手したのが本島開拓の始まりで

サトウキビの島へ

当時は、原生林がうっそうと繁り、 林間には鳥類が嬉々として、恐らく人間の征服を知る由もなかったろうが、 開拓が始まるや住宅が建設され、密林 を開き道をつけ、畑となし、適作物の 試作及び栽培等と、開拓は進められ、 2ヶ年目の1902(明治35)年には、 人力をもって甘蔗を圧さく黒糖を製造 して、砂糖の島として礎石を築くに至 りました。

島の発展

第一次開拓移住民23名に引き続き、 第二次、第三次と数次にわたる移住民 を加え、1916 (大正5)年頃には人口 3,500人を数え、現在の保安林、防風林 地域を除き開拓可能地の殆んどが拓か れ、かつての絶海無人の島も、開拓者 の苦闘が報いられ、入植以来10数年に して豊穣楽土の地を築くに至りました。

島全体を会社が所有

開拓以来 40 年余玉置商会、東洋製糖会社、大日本製糖会社(日糖興業)の経営する島で日本国中にも類例のない社会制度が続けられていたが、1946(昭和21)年6月12日歴史的な村制が施行され、南大東村が誕生しました。

土地所有権(キャラウエイ)

1951 (昭和 26) 年以来土地の所有 権者である大日本製糖会社と折衝を重 ねた農家の土地所有権問題も13年余り の長年月を経て円満解決(請求農地は 無償で農家に所有権を認定)しました。 そして、農家それぞれの土地所有権が、 1964 (昭和 39) 年7月30日に確立し ました。

この日は本村歴史の上に記念すべき 日となりました。

本村は開拓以来唯一の産業である製 糖業は、現在、我が国有数の砂糖の島 となっています。

希望と喜びを乗せて、さとうきび畑を シュガートレインが走っていた。





●軌追跡

昭和58年まで機関車運搬が主流でした。その後はトラック運搬での工場搬入となり、機関車は廃止。現在では島の4箇所に残されています。



●機関車庫

現在は製糖業関係や農業従事者等の農機具全般の 整備や保管庫となっています。見学も事前に連絡 していただくと可能です。



●当時のシュガートレイン車庫

昔はさとうきび運搬用の機関車(通称:シュガートレイン)の車庫として、製糖期以外はメンテナンス等が行われていました。